

放課後デイサービス研修会

2022年9月

児童発達支援事業

児童相談支援事業 パーチェ

田村一美

相談支援モニタリングから

〇くん（中学2年生） 「マスクが外せない」そのために学校でお昼ご飯を食べることができない。自分の顔は人に見せられない。整形したい。

Kくん（小学5年生） 2学期になり週3日ほど、朝におなかが痛くなり、学校に行けない。放課後デイでコロナに感染。家族が働けない状態になった時期がある。父親が放課後デイにいかせたくない。子どもは行きたいといい、母は間で悩む。

コロナ禍の社会の中で、子ども達の心は、どこまで不安が大きくなっているのか・・・

個別支援計画ってなぜ必要？

こどもの願い
保護者の願い
支援者の思い

これらを重ねるために必要なのではないかな・・・

▶でも、保護者がこうなってほしい、
支援者がこうなってほしい、
それが直接、支援計画になってしま
いがち

♪ 児童発達支援事業、 放課後等デイサービスの仕事とは

“できないことを、
できるようにす
るための支援？”

“困り事をなくす
支援？”

”社会に適応する
ための支援？”

こどもが成長・ 発達する環境 とは

1. 「いきたい！」場所になるのが前提！！
2. 安心感もてる空間
(人との距離・音など)
安心感・信頼感が持てる支援者がいる。
甘えられたり、自分の嬉しかったこと
や不安を理解し受けとめてもらえる
大人の存在があること。
関わりが楽しいと思えるお友達がいる。
3. 好きな遊びがあり、挑戦したくなる活動
がある。わくわく感がある活動。

♣ 5年生（発達障害・療育手帳あり・普通学級）
学校では一人で過ごすことがほとんど。
でも、放課後デイではお友達に教えてあげる立場）

♣ 3歳児（知的遅れ）
幼稚園ではお友達からお世話されて生活をしている。
療育ではダウン症の小さいお友達のそばに
そっと横に絵本を持って行ってあげる姿

♣ 4歳児
療育に来て1ヶ月、週1日の療育が終わると
「明日も▽▽（児童発達）？」と毎日聞く。周りと比べなくていい、
自分が認められている実感があると母は話す。

「～してあげる」立場、主人公になりたい
と求めている。

あらためて、発達とはなにか？

子どもたちが、自分のもっている力を発揮し、人との関わりや活動に、自ら主体的に向かう

障がいのために遅れや特性があるために
感覚の不安・お友達は上手だけど、ぼくは下手などの
葛藤があるこどもたち。

支援者はこどもたちにどんな視点を持ち、
どんな実践をするのか



個別支援計画

支援・指導とは？

「共に生きていて、同じものをみて
気づいていける姿勢があり、
その人の前に飛び石を置いていくようなもの」

「本人が何かに向かっている、
行きたいと思っている方向に、
その子が「とべたよ」と思える距離で飛び石を置いて
いく作業」 ～夏の研修会で学んだ言葉より
～

これをがんばれ、～はしてはいけないなど
ルールをひくのではないということ

本人が頑張りたくなる、自分の気持ちをコントロールしたり、相手の気持ちを考えたり・・・
それを導く支援

子どもの願いを知るために・・・

- ・ お父さん、お母さんとの関係、兄弟の関係、
父母の育ってきた歴史や生活、仕事などが、
子育てや子どもへの願いに影響していることも多い。
- ・ 学校（保育園・幼稚園）の先生との関係、お友達関係、
勉強、障がい特性、発達・・・
- ・ 関係機関（発達相談所、保育園・幼稚園・療育施設・
学校・相談支援事業所）など
連携を通して、こどもさんを深く理解する。

発達のだ筋はみんな同じ

☆受け身だった子が、能動的に外の世界に働きかける時期
模倣、指さし、あやされて笑うから自分から声を出す

☆自己主張を始める

こっちではなく、こっちがいい！ 止められると「いや」
発達に遅れがあったり、対人関係に弱さがある子どもは
好きな遊びが見つからない、強いお友達に押されて受け身や指示待ち
その子のペースで遊べる環境が大事

☆「大きいー小さい」の理解が出てくると、新たな葛藤が生まれる。
「できないからしない」かっこいい自分になりたいけれど・・・

☆がまんする心（自制心）の育ち

自分で考えてお友達におもちゃをゆずる、苦手なことに挑戦
大人に言われてではない。（～だけれども～する）

☆自分の気持ちを主張するだけでなく、お友達の気持ちを考え、聞く。
大ー小からぬけて「真ん中」「中くらい」「ほどほど」

年長Aくん

(知的遅れのある自閉症スペクトラム障がい)

個別支援計画でお父さんとの面接

父：「職業柄、叱って、厳しくがモットーです。
だから職場でも家庭でも自分は厳しくしている。
偏食が強い我が子が、自分の前では食べるけれど、母がいると食べない。
厳しくしている自分の前だけいうことをきくというのは、
本当は違うのではないかと思う。
でも、自分も親から厳しくされてきた。その対応しか知らない。」

お父さんが厳しいというのは、お母さんやおばあちゃんの悩み。
極端に父、母に向ける態度が違うのが気になる。
でも、お父さん自身からこんなお話を聞かせてもらったのは初めてだった。
両親はフルに就労、父母が休みをとり、また、祖母にも協力してもらい
交代で療育に通っておられる。
就学はご両親で育成学級を選択される。